

北海道選手団のモスクワ州訪問 結果概要

◇ 概要

曾根 北海道ロシア担当課長を筆頭とする計38名の北海道選手団は、北海道とモスクワ州の地域間交流関係に基づき、モスクワ州側からの招待を受けて、モスクワ州プシュキノ市で開催された「第10回日本の聖ニコライ杯」に参加した。

北海道空手道連盟所属の中学生・高校生選手は、空手の組手と形の日露交流戦に参加し、北海道相撲連盟所属の高校生・大学生・社会人選手は、ロシア選手との体重別の総当たり戦を行った。この他、日露合同練習会や日露交流会が開催され、それぞれロシア側選手等と親交を深めた。

また、選手団はモスクワ州主催文化プログラムの一環で、赤の広場やモスクワ州にある世界遺産聖三者聖セルギイ大修道院などを訪問し、ロシア文化への理解を深めた。

なお、本事業は日露青年交流センターの派遣交流プログラムとして、2020年1月から開始した日露地域・姉妹都市交流年事業の認定を受けて実施した。

◇ 選手団構成

曾根ロシア担当課長、

北海道空手道連盟理事長、同連盟副理事長、同連盟強化委員会副委員長、

北海道相撲連盟理事長、

中学生女子空手選手4名、中学生男子空手選手5名、

高校生女子空手選手6名、高校生男子空手選手5名、

高校生男子相撲選手6名、大学生男子相撲選手3名、社会人男子相撲選手2名など計38名

◇ 日程

令和2年2月5日（水）～10日（月）

1 第10回日本の聖ニコライ杯への参加

○日時：2月7日（金）13:00～16:30、2月8日（土）11:30～13:00

○場所：モスクワ州プシュキノ市スポーツ複合施設「プシュキノ」

○内容：7日には開会式並びに空手の組手及び相撲の日露交流特別試合が、8日には空手の形の試合がそれぞれ開催された。

北海道空手道連盟所属の中学生・高校生選手計20名は、世界大会ルールでの組手競技をロシア選手と各選手1試合ずつ行う日露交流特別試合に参加し、8日には選手団から選抜された5名の選手が、年齢別の形の試合に参加した。

北海道相撲連盟所属の高校生・大学生・社会人選手計11名は、ロシア選手と体重別の総当たり戦を行った。

この他、日露合同練習会が行われ、また昼・土俵を離れた後にも別室で指導者間や選手間の日露交流会が開催され、団員はそれぞれロシア側選手等と親交を深めた。



空手合同練習会



相撲日露交流戦



日露空手選手集合写真



日露相撲選手集合写真

開会式には、大会主催者であるソコロフ全ロシア正教武道連盟共同議長の他、フロモフ・モスクワ州副首相、テリュシュコフ同州スポーツ文化大臣、クズネツォヴァ子どもの権利分野大統領特別代表、在ロシア日本国大使館の山本公使などが出席し、北海道選手団を代表して曾根ロシア担当課長が挨拶した。



フロモフ副首相（中）、テリュシュコフ大臣（右）



北海道選手団代表挨拶
（一番左はソコロフ共同議長（大会主催者））

2 モスクワ州主催文化プログラム

- 日時：2月8日（土）16:00～20:00、2月9日（日）11:00～15:00
- 場所：聖三者聖セルギイ大修道院、赤の広場、ザリヤジエ公園
- 内容：北海道選手団は、モスクワ州政府の案内により8日にモスクワ州セルギエフポサド市にある世界遺産聖三者聖セルギイ大修道院を訪問し、また、9日にはモスクワ市中心部の赤の広場及び隣接するザリヤジエ公園を訪問し、ロシアの歴史・文化への理解を深めた。



聖三者聖セルギイ大修道院視察



赤の広場視察